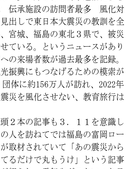
創立 1963年3月16日

Rotary 上尾ロータリークラブ

2023-2024年度R.I.テーマ
世界に希望を生み出そう

第3004回 例会
2024. 3. 7

会長あいさつ


2023-2024年度 長沼 大策会長

皆さん、こんにちは。本日もご出席いただきありがとうございます。

まずは最近のニュースから話題を1つ。3月4日の時事通信によると、【被災地「教育旅行」が本格化 伝承施設の訪問者数急増 風化対策、観光振興も・東北3県】という見出しで東日本大震災の教訓を全国の子どもたちに伝えようと、岩手、宮城、福島の東北3県で、被災地を巡る教育旅行の誘致を本格化させている。というニュースがありました。2023年には3県の伝承施設への来場者数が過去最多を記録。震災の風化を防止するとともに、観光振興にもつながるための模索が続いているそうで、3県の33施設・団体に約156万人が訪れ、2022年の1.3倍に上った。とありました。震災を風化させない、教育旅行は良い取り組みですね。

今月の「ロータリーの友」誌の巻頭2本の記事も、1 1を意識した特集記事が載っていましたね。この人を訪ねてでは福島の富岡ロータリークラブの藤田大さんという方が取材されていて「あの震災から13年 町の復興にもがく日々 生きてるだけで丸もうけ」という記事が掲載されています。生々しい記録が綴られ、電気やガスというたちアイフライフが絶たれ、被災から数日、瓦礫の中での食事も大変で、避難所では最初配給が1世帯におにぎり1個しかなく、カップ麺の「どん兵衛」が届いた時は宝物のように見えました、と語っています。読んでいて辛い記事なのですが、藤田さんは前を向き、復興を目指す活動を展開しながら2015年にロータリークラブに入会、昨年度は会長も務め、クラブには4名の新会員を入会させたそうです。逆にいお顔をカメラマンさんがとらえています。ぜひご一読をお勧めいたします。

震災を風化させない、被災地にささやかでも復興支援をしたい、という思いで当ラブ社会奉仕委員会さん・被験活動委員会さんが東北地方へ行く親睦旅行を企画してくださいました。2月の理事会に上程した2パターンの企画は却下されてしまい、細部にわたったご指導のもと、再度、山崎親睦委員長が時間がない中、一生懸命プランを練ってくださいました。山崎委員長、ありがとうございます。ロータリーの旅行では、家族を連れ立っていっそう親睦を深める、ということが重要だそうです。4月12日（金）・13日（土）の2日間、もしかしたら東北の桜の季節にあたるかもしれません。復興支援の意識をもちながらも親睦旅行を楽しんでいただければと思います。

さて本日は、長沼順子様の卓話になります。地区ではさまざまな部門に出向されています。私は浅未年度と大賀年度に地区公共イメージ向上委員会（当時は広報委員会）に出向し、ご一緒させていただきました。今年度も地区の委員として活躍し、次年度は第1グループのガバナー補佐とのことです。

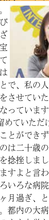
親睦さんの、ご紹介のくりかえし同、そして志の通った声というのは、さすが、アナウンサーだなと思います。さまざまなイベントの司会をされているシーンを拝見させていただきましたが、会場でのアドリブ能力もさすがだなと感嘆することがあります。親睦さんは皆さんが思っている以上に凄い方で、もしかしたら何十年か前、メディアで通ってご活躍されていたのかもしれません。前回の卓話の中でも「女子大生がもてはやされた時代で」というくだりがあったと思いますが、親睦さんはミスDJのお一人だったことがあるそうです。前年度、「私の宝物が3つある」というお話で、朝霞警察さんとの思い出の話、亡くなったお母様の手紙がロータリアンを通じて手もとに届いた話まで聞き、時間切れとなってしまいました。本日は3つ目の宝物をお聞かせいただければと思います。今年度、親睦さんが卓話にお越しいただくことこそが、私の宝物になりました。本日もよろしくお願いいたします。

幹事報告

坂本 忠光 幹事

◇3月のロータリーレートは1ドル＝151円です。

◇献血のポスターが届きました。4月18日に献血を行います。事業所にポスターを貼っていただける方は幹事まで連絡ください。



委員長報告

国際奉仕委員会 大木保司副委員長

ご報告させていただきます。台南ロータリーのアキラさんから連絡があり、姉妹クラブである台南東北RCさんの創立32周年記念式典5月11月～12月に催されるのですが、上尾クラブさんのお越しいただいたらお喜びされるのですが、ご参加されるかどうかは、ご検討ください。

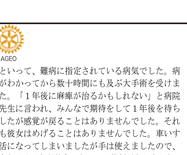
また台南では10名ほどが参加して日本語教室を行っていて、来年3月に来日したいとも仰っていたそうです。今年度会長と次年度会長には理事会等でご検討いただければと思います。

親睦活動委員会 山崎亮一 委員長

クラブ研修リーダー及びローターリー情報委員会、そして親睦活動委員会による合同で新会員歓迎会を3月21日に恵比寿亭で開催します。併せまして、4月12日・13日に会員親睦旅行を企画しています。それぞれ出欠のご回答を期日までにお願いいたします。

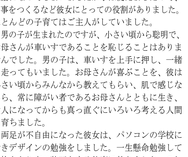
2024～25年度 地区出向者 委嘱書授与

資金推進委員会委員 斎藤修弘会員



RLI修了証授与

Part Ⅰ 大木崇寛会員



例会主題

私の宝物 PartⅡ

梶間 順子様(浦和中ロータリークラブ)

皆さん、こんにちは。

昨年度に続きまた2年ぶりにお話をさせていただきありがとうございます。前回は2つの宝物についてお話しさせていただきました。今回は3つ目の宝物ということで、私の人生にたくさん関わってきた親友の話しをさせていただきます。介護について、昨今問題になっていますが、今日の話しから何か1つでもお心に留めていただけたら幸いです。

私の親友はいま歩くことができず車いすの生活をしています。発病したのは二十歳の頃、一緒にスキーに行って親友は左足を捻挫しました。病院に行って1週間くらいで治りますよと言われましたが1カ月たっても治らず、いろいろな病院に行ったのですが、原因不明のまま2ヶ月過ぎ、とうとう左足に麻痺がきてしまいました。都内の大病院に行っても原因はわかりません。そのまま大学を卒業し仕事に就くようになりました。その頃には右足も麻痺している状況で、ふからうして歩けましたが、運動などしたものなら次の日は全く歩けなくなったと思います。

当時、元気いっぱいな彼女は、毎日マッサージをしていました。そこで接骨院の先生である彼と知り合って恋に落ち、親友が25歳の時に結婚することになりました。彼は結婚式で「僕は彼女の一生一切を守ります」と言ったのが印象的でした。25歳で結婚し、皮肉なことに自分の足で歩いたのが、結婚式でのバージンロードだけになってしまいました。その時を最後に、とうとう右足も麻痺してしまい歩けなくなってしまい、結婚生活では、昼間は1日ふとんやルーバーさんが来てくださって、夜は二主人が介護をするという状況でした。彼女が29歳の時、子供ができました。満足に子供を育てられないのであれば産まない方がいいからと彼女は悩まされた、赤ちゃんという気持ちと、ご主人の「僕が育てるから せめ産んでほしい」という言葉から出産の決心をし、30歳になる頃、彼女は出産をしました。産んだ後、彼女は歩けないばかりか、足の感覚もなくなってしまいました。

そうなって初めて病名がわかりました。脊髄空洞症というって、難病に指定されている病気でした。病名がわかってから数ヶ時間にも及ぶ大手術を受けました。「1年後に麻痺が治るかもしれない」と病院の先生に言われ、みんなで期待をして1年後を待ちましたが感覚が戻ることはありませんでした。それでも彼女はめげることはありませんでした。車いす生活になってしまいましたが手は使えましたので、食事をつくるなど彼女にとっての役割がありました。ほとんどの子育てはご主人がしていました。

男の子が生まれたのですが、小さい頃から聡明で、お母さんが車いすであることを恥じることはありませんでした。男の子は、車いすを上手に押し、一緒に走っていました。お母さんが喜ぶことを、彼は小さい頃からみんなから教えてもらい、肌で感じながら、常に障がい者であるお母さんとともに生き、大人になってからも良い意で こういろ考える人間に育ちました。

両足が不自由になった彼女は、パソコンの学校に行きデザインの勉強をしました。一生懸命勉強して資格を上手の装丁をする仕事に就きました。これなら家でできるということで、通勤するお勤めはやめて装丁の仕事に専念するようになりました。

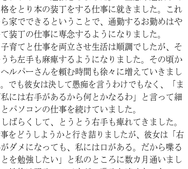
子育てと仕事を両立させた生活は順調でしたが、そのうち左手も麻痺するようになりました。その頃からヘルパーさんを頼む時間も徐々に増えていきました。でも、彼女は「迷惑掛けたくない」とおっしゃいましたが、「まだ私には右手があるから何とかなる!」と言って神タとパソコンの仕事を続けていました。

しばらくして、とうとう右手も麻痺してきました。仕事をどうしようかと行き詰まりました。彼女は「右手がダメになっても、私には口がある。だから喋ることを勉強したい」と私のところに数カ月通いました。性格は明るいのですが、喋ると早くなっちゃって全然ダメだったのです。「明るくなくてもいいから、なんとか自分の思いを人に伝えるだけの能力を授けてほしい」と懇願されたので、私も言霊にレクチャーしました。そして彼女は、同じように苦しむ身障者の方々、病気の方々のための講座をもって全国を回るようになりました。自分の体験談や、仕事のツールなどを皆さんに伝える貴重な仕事に就けたと思います。彼女は積極的に地方の団体にアプローチし、そこから官公庁にも繋いでいただき、公の仕事にも進出しました。

おさきさんは順調に成長し大学にも行きました。卒業をして連絡も途ぎまりました。そんな時、私に彼女から「すぐ来てほしい」と連絡がありました。行くと彼女は泣いて取り乱し、打ちひしがれていました。いくつもの困難を前向きに乗り越えてこられた彼女のそんな姿は初めてだったと思います。「どうしたの?」と尋ねると、数十年ものご主人を続けてきたご主人から「今日限り介護をやめさせてほしい。一日でいいから、夜、ゆっくりお酒を飲みたい。友だちと食事をしたい。今まで我慢してきたけどもう無理だ」と言われたのだそうです。彼女は「なんてひどいことを言うの。私を一生守るって言ったじゃない」と半狂乱になりました。そしておさきさんに父親の言動を伝えとこう、自分の味方だと思っていた息子さんからも「お母さん、もうお父さんを自由にしてあげてください。お父さんを解放してあげてください。お父さんは今まで充分にお母さんの介護をしてきたよ。お母さんを守ってきたよ。これからはもう守るから、お父さんをどうか自由にしてあげて」と言われたそうです。彼女は傷つき、どうしていいかわからなくなってしまいました。彼女の中には、誰にも支えてもらうのは当然と、ほんの少し思いあがった気持ちがあったのかもしれません。ご主人は勇気を振り絞って介護を放棄する宣言をしたのです。

ご夫婦の家は4階建てのビルで、1階はご主人の接骨院、2階・3階はご夫婦が大家になっている賃貸住宅、そして4階に家族で住んでいました。介護放棄を宣言したご主人は1階の接骨院の奥で生活するようになりました。離婚には至らず、別居という形になりました。彼女は24時間体制でヘルパーさんをお願いするようになりました。数十人のヘルパーさんに頼りながら、彼女は主を暮らしています。彼女はそれでいいと決断したそうです。彼女の心理状態ははじめわからなかったのですが、時間が経つにつれわかってきました。というのも、4階建てのビルを建てるのに、ご夫婦で相当苦労をしてお金を建てた、そのお城を彼女は出たくない、想い出がいっぱい詰まった、車いす生活の第1歩がそこから始まったその家を、どんなことがあっても出たくないと思ったからだそうです。今ではご主人も昼食を一緒に食べるようになりました。身の回りのことを話せる関係にまで修復したそうです。そんなご主人を、私たち友人は長年見ていて頼めることはできません。ずっと彼女を介護してきた彼の姿には、頭が下がる思いです。彼が介護を放棄したからといって、ひどいという思いは一切浮かびませんでした。現在はいい形で彼女との関係が保ていているのであれば、それはそれで良かったのだと思います。

今彼女は、自分のことだけでも大変なのに「人のためにできることはないか」と探って、口が達者なことと記憶が良いという点だけを伸ばし、落語を覚えたり、講談を覚えたりして、老人ホームや、同じような難病に苦しむ方の病院などに慰問に行っています。それが彼女の生きがいになっています。そんな彼女の生き方を見ていて、これから先、自分に何があっても生きていけるのではないか、そんな強さを彼から貰いました。彼女の存在そのものが、私にとっての宝物であると大きな声で言いたいと思います。本日はご清聴いただきありがとうございました。



スマイル

梶間順子様、
卓話いただきありがとうございました!!

梶間順子様（浦和中ロータリークラブ）／長沼会長／坂本幹事／
門﨑副会長／中田副幹事／大塚信部会長／村岡会長／大木保司会員／
宮薗博重会員／深澤会員／藤村会員／樋口会員／斎藤修弘会員／
大木崇寛会員／山崎会員／寺協会員／木田会員

出席率

会員数	35
出席免除者欠席	4
出席対象者	31
出席者数	16
	51.61%